

昨日より今日の私が好き



ヴァイオリニスト 天満敦子さんに聞く

100年前のルーマニアの作曲家ホルムベスクの遺作「望郷のバラード」。天満さんの演奏でCDは大ヒット。クラシック、ヴァイオリンファンを広げた。「トランシルバニア平原の落日が目に浮かぶ」(当時ルーマニア古川大使、CDノートより)と評されるように、哀愁を帯

びた曲は、時を越え、国を越えて胸を打つ。この曲をモチーフにした小説百年の預言(高樹のぶ子)も話題。今月24日もカザルスホール、21日はサントリーホールで地雷廃止チャリティコンサートと多忙。六本木の全日空ホテルで、インタビュアー三輪純水記者。

ときめき インタビュー

三輪 本日に国内外で活躍されていますが、「難民を助ける会」提唱のチャリティコンサートにも何度か出演されているんですね。
天満 このころはおかげさまで、私が「やりたい」と言う「うたごえ」は「どうぞー」という感じで結構叶うようになりまして。難民を助ける会と出会ったことからですが、この間も中近東のバレーンに行った時は盲人学校と知覚障害者の人たちの前で弾きましたし、ルーマニアでは毎年子どもエイズ病院で演奏しています。



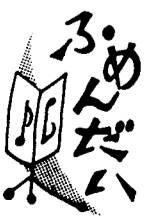
▲六本木の全日空ホテルで

天満 私もよくあいうまロディーがあったと思えます。たぶん、私が一生かかって一番出会った曲ではないですね。だから運命というのがあるもんだと思います。宝くじ当てちゃったようなもの。だから本当の宝くじはちっとも当たらないわ(笑)。たときと同じ、ああ！来た

三輪 「ツィゴイネルワイゼン」とどこか似ているとCDノートにありましたが、私はカザルスが弾いて有名になった「鳥の歌」にも似ているなと思ったのですが。
天満 「カザルスの「鳥の歌」というように、天満の「望郷のバラード」と言われるような仲間に入れたかなというのはいえ、聴く人もしょろ、これはいいわけでしょう。一生かけて弾き込んでいこうと思える曲なの。
三輪 ルーマニアに最初に弾かれたのは92年。政変の跡は残ってました？
天満 ええもう。ビルは銃弾の穴がぼこぼこ、空き家が多かったですね。行くことに周りは大反対しけれど、私は大使館がケアしてくださるのが分かってましたから、何も心配していませんでした。(4・5面につづく)

今週の記事

- ☆天満敦子さんに聞く／創刊45周年 うたごえ新聞まつり案内 **4・5面**
- ☆ずーむあっぷ(大島有美子・声楽家)／東日本郷土講習会 **3面**
- ☆「連載」 「ミュージック・トゥデイ」(日下節吉彦)／「われらニヤの合唱ニヤン」(古沢望)／「空を見てますか」(池辺晋一郎)
- ☆音楽会評(名古屋青年合唱団) **7面**
- ☆高尾山の自然を守る運動と歌 **8面**



その日、勝者と敗者がいた。

☆ 勝者は、シドニー五輪の最終代表選考会を兼ねて開かれた名古屋国際女子マラソンの優勝者、高橋尚子。残る二つの代表枠をめぐり、日本最高記録レベルのたたかいを余儀なくされた絶体絶命のプレッシャーのなかでの勝利だった。

この驚異は、小出監督の指導力を裏し、押し掛けて自らを売り込んでつかんだ二人三脚のたたかいかから生まれたといえる。

☆ 敗者は、WBALイト級タイトルマッチで、一回二度のダウンを奪い優勢に試合をすすめるながら、両目負傷で無念のTKO負けを喫した坂本博之。

彼は理由があり少年時代一時期養護施設にいた。そんな人間でも、世界一になれることを証明したくてこの世界に入った。

近年まれにみる闘争本能そのままの戦いぶり、ここに所以する。施設の子どものための約束をはたすため、彼は四度目の世界挑戦をめざす。

☆ 勝ち負けのちがいがあっても、それぞれの条件のなかで、それぞれの目標に向かって現実に安住せず、自己を高め挑戦する姿に、人間のすばらしさを見る。奇しくも同じ日、情性に流され悶々と日々を過ごしていた娘が、もう一度人生をやり直したい、と決意した。ガンパレノ (東)